

地方自治体がエコツーリズムを成功させるためには―長野県阿智村の事例に基づいて―
豊橋創造大学 経営学部4年 梶間萌里（原木ゼミナール）

1. 背景

マスツーリズムとは、第二次世界大戦後の経済発展を背景に、それまで富裕層に限られていた観光旅行が、大量仕入れにより価格を下げ大衆へと広まった。

しかし、第二次世界大戦後のバブル期に豊かさを実感し旅慣れた日本人は、マスツーリズムの大衆向けのどこでも同じような観光では観光需要が満たされなくなっている。そこで注目を集めたのがニューツーリズムである。

本研究の目的は、ニューツーリズムの中でもエコツーリズムが地域経済に及ぼす波及効果とその成功要因について阿智村を事例として検討することである。

2. 研究枠組み

日本エコツーリズム協会によると、エコツーリズムとは、①自然・歴史・文化などの地域固有の資源を生かした観光を成立させること、②観光によってそれらの資源が損なわれることがないように、適切な管理に基づく保護・保全をはかること、③地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果をねらいとする、資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合をめざす観光の考え方である。それにより、旅行者に魅力的な地域資源とのふれあいの機会が永続的に提供され、地域の暮らしが安定し、資源が守られていくことを目的とする。

エコツーリズム研究の多くは各自治体の取り組みがいかに環境保護に資するかを検討するかという側面に焦点が当たっている。本研究では特に③に注目してエコツーリズムがいかに地域の活性化につながるかを検討するため、大平(2017)が提示した観光を活用した地域産業活性化の成功要因3点に沿って阿智村の事例を分析する。

1. 自治体が長期サポートすること
2. 外部リソースの確保・活用を図ること
3. 地域の「誇り」を醸成すること

3. 事例

阿智村は長野県の南部に位置している。阿智村は平成18年の全国星空継続観察で「星の観察に適していた場所」として第1位

に認定された。これは地域固有の観光資源と考えることができる。

また、阿智村の星空が損なわれることがないように、大気や明るさの測定を実施している。また、「この星空を今後も観察可能な環境を作ろう」という案内があるなど、環境の保護や保全がなされている。

さらに、スターツアーの経済的な恩恵を阿智村の観光業だけでなく、それ以外の産業も享受できるよう阿智村の商工会議所と協力し屋台を出店し、地元企業と協力し阿智村産ジビエ使用のカレーを村限定で販売している。このように観光による経済的な恩恵を観光業以外にも波及させようとしている。

図表1 阿智村の成功要因分析

1. 自治体が長期サポート	・組織の会長が阿智村長。 ・阿智昼神観光局には阿智村役場の職員がいる。
2. 外部リソースの確保・活用を図る	・スタービレッジ阿智誘客促進協議会の運営組織の顧問に「JTB関係者」がいる。 ・ガイドスタッフの中には、長野県外から阿智村へ移住した星空の専門家もいる。
3. 地域の「誇り」を醸成する	日本サービス大賞を受賞した際、社会の発展への寄与として「村の人々が自信と誇りを持てるようになってきている。」とある。

4. 考察

ニューツーリズムは地域ありのままの資源を活用する観光である。阿智村も星空という地域の魅力を再発見し、それを生かすことで、大きな価値のある観光資源にした。

地域住民が地域に埋もれていた魅力に気づき、魅力が損なわれることがないように保全・発展を行う。その価値を地域の住民同士で認識し、その魅力を観光に取り入れることで、唯一無二の観光資源になる。

※紙面の都合、参考文献一覧は割愛する。